

自己評価票 (西ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所の理念の中に「地域に溶け込んだグループホームづくり」を掲げている。</p>	<p>○</p> <p>生まれ育った地域の中で、その人らしい生活を送っていただけるよう支援していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>週に1回の朝礼にて、代表を含め理念を唱和し、確認している。基本理念に基づいた支援をしているよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>基本理念に沿って日々取り組んで行きたいと思う。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族様には、入居時に説明していますが、常に玄関や見やすいところに掲示し理解を得てもらえるよう努めています。また、地域の方々には村の行事に参加したり、ホームの行事に協力して頂いたりしている。</p>	<p>○</p> <p>ホームの行事にてご家族様や地域の方々への参加を促していますが、ご家族様の参加が少ないので、参加できるよう日時等、考慮していく必要がある。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>近所の方が気軽に立ち寄ることは、あまりないが、以前入居されていた方や、働いていた方が自分の作った野菜などを持ってきてくれたりしている。また、利用者様が日光浴や散歩をされてる際は、気軽に声をかけて頂いたりしている。ホームの行事には、地域の老人クラブの方々に参加され手踊り等を披露して頂いた。その他に、村の保育園とも交流を持ち行事参加を促している。</p>	<p>○</p> <p>クリスマス会に、村の保育園の園児たちが参加し、催し物をしてくれる予定でしたが、新型インフルエンザ流行のため、中止となっている。インフルエンザ流行が落ち着いたら、再度交流会を検討中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の報告書をもとに職員全員へ申し送りし、問題点等を話し合い改善するよう努めている。 また、ホームにて改善を図りたい時は、即座に全体ミーティングを開き、改善に努めている。	○	まだまだ見直す点はあるので、今後も評価内容を検討し、努力していきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、利用者様やサービスの実際、報告等行い、相談やお願い、意見交換の場として活用している。 また、職員も参加しているため現状を把握しやすく、日々のケアに生かせるように取り組んでいる。	○	近隣に住宅が無い場合、緊急時の協力体制を整備していきたいと思っている。運営推進会議を活かし、協力を呼びかけたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回は、村役場へ行き利用者の入所の状況を報告している。その際、役場担当者と話し、運営の実態を共有している。 その他年に1回、実地指導が入り課題解決に向けて協議し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後、スプリンクラーの設置に関する情報や、地域での緊急時協力体制を確立していくうえでも連携を密に図っていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についての資料を配布したことはあるが、職員全員が具体的な内容を理解しているとはいえない。	○	制度についての勉強会や研修に参加し、職員全員が制度についての知識を持ち、活用できるようにしていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを参考にしている。また、勉強会を開き虐待が起きないように職員全体で努めている。	○	職員の意識向上を図るため繰り返し、勉強会等を通して虐待防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時、重要事項説明書にそって説明をしている。その際、不安や疑問点などが無いかな尋ね、納得の上、契約を結んで頂けるよう努めている。</p>	○	<p>入居後も不安なく生活ができるよう、本人・家族の疑問点を尋ね、納得し安心した生活を送れるよう支援していきたい。</p>
11	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様が意見を述べやすい雰囲気づくりを心がけている。状況により個々に話しを聞いたりすることもある。</p>	○	<p>もっと利用者様が意見を話せるような機会をつくって行きたいと思う。</p>
12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、各家族宛に利用者様の病状や現状、暮らしぶりを手紙にし、郵送している。 2ヶ月に1回は、逢々通信というお知らせで行事、職員異動等の報告をしている。また、必要がある月は臨時のお知らせを郵送することもある。 金銭管理については、毎月の支払い時に確認してもらっている。</p>	○	<p>面会時や、カンファレンス時に再度、ご家族様に報告し、理解して頂くよう職員全体で取り組んで行きたい。</p>
13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情の窓口が示されていて、いつでも受付できる体制を整えている。また、ホーム玄関にはアンケートBOXを設置し、意見を述べやすいよう配慮している。 他に、青森県運営適正委員会の連絡先を玄関にしている。</p>	○	<p>普段は直接聞けない部分も、事業所のためにも、苦情や意見を参考にしていきたいと思う。</p>
14	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営推進会議には、各ユニットのリーダーが出席するよう心がけていて、職員の意見や提案も述べられている。 職員の個人面談を行い意見や、提案を述べやすいようにしている。</p>	○	<p>職員の意見・提案を検討し、運営・業務に生かせるよう努めて行きたい。</p>
15	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>対応が必要な場合は随時職員同士が話し合い、柔軟に対応できるよう勤務の調整を行っている。</p>	○	<p>今後、さらに利用者様が安心・安全に生活が送れるように、随時対応を図って行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常から東・西ユニットの利用者様との交流を図り、利用者様の行き来も自由にして頂いている。利用者様に担当をつけてケアを行っているが、離職する場合は利用者様へのダメージを防ぐため、ユニットリーダーがしばらく担当を努め、統一のケアを支援できるよう心がけている。	○	離職率が高いため、必要最小限に抑える努力をしていきたい。 個人面談をし、意見を反映できるよう努力している。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、社内勉強会を開き知識と技術の向上を図れるよう努めている。	○	今後は、個人の目標などを考慮し、その人に合った研修会へ参加してもらおうよう促していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の事業所でチームをつくっており、年に1度、チーム内で相互評価というお互いの事業所を研修し合い、良いところを取り入れる機会を設けている。	○	今後も、イベントや勉強会を通して、連携・交流の強化に努めたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の親睦会などを実施している。	○	個人面談等を活用し、ストレス軽減に向けた工夫や、環境を整えていきたい。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自に目標を掲げてもらい、3ヵ月ごとの見直し・評価をおこなっている。 リーダー等役割分担し、各自責任を持ってもらう。	○	経費等考慮し、ボーナスなど何らかのかたちで反映していけるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	介護支援専門員が、必要時は利用者様の自宅や医療機関を訪問し、本人・ご家族と面談し、相談等に乘れるようにしている。	○ 今後も本人・ご家族との対話を行い、信頼関係の強化に努めたい。
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が、相談を受け、必要に応じて介護職員や管理者を含め会議を行い、的確に対応できるよう努めている。	○ 他にも様々なサービスの選択肢があることなどをご家族に説明し、相談に乗れるよう他のサービスの熟知に努めるようにしていきたい。
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居説明の際、馴染みの物品の持ち込みができることなどを説明し、また、ご家族や本人に趣味や好みなどを尋ね、話題を提供したり新しい環境に早く馴染めるよう努めている。	○ 職員全体で、利用者様の情報を共有し、利用者様が早く馴染めるよう取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の残存機能を活かし、共に支え合うよう努めているが、過剰介護になりがちである。	○ 「笑顔のある暮らし」を念頭にし、利用者様・職員共に支え合い、励まし合いながら生活できる環境作りに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議にて、ご家族や職員の意見を取り入れ、一緒に課題に取り組むようにしている。	○	担当者会議に参加されないご家族もいるため、ケアプランが押しつけになっていないか確認が必要である。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が、面会しやすい雰囲気作りに励んでいる。	○	本人・ご家族の立場を理解し、信頼関係を築きながら、今後も良好な関係を続けていけるよう支援していきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店や店の利用などで関係性が保てるよう支援し、電話や訪問などで交流を継続できるよう努めている。	○	利用者様が馴染みにしている店や人など把握し、関係性が保てるように交流を継続していきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう、共同で作品をつくってもらったり、みんなで体操をしたり、軽作業を促し、自室へこもらないように職員が声がけを心がけている。	○	ユニット合同でレクリエーションを催し、得点式で景品を渡す企画を検討中である。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の相談に応じるなど、サービス利用終了後も関係性を保ち続けるよう努めている。	○	退所された利用者様が育てた作物等、季節ごとに差し入れして下さるので、今後も関係を継続していくよう心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを通し、一人一人の思いや、希望にそった生活が行えるよう努めている。また、積極的にご家族との関わりを持つようにしている。	○	利用者様の思いや、意向に沿えるよう努力していくと共に、常に利用者本位のケアを意識するよう努めたい。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話の中から得た情報や、ご家族様からの情報を収集し、生活史の把握に努めている。	○	職員全員で情報を共有し、利用者様に合った生活が営めるよう支援していきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	月に1回、職員全員でケアカンファレンスを開き、利用者様個々のケアの統一を図っている。	○	今後も、職員全員が利用者様の現状の把握に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・ご家族・職員の意向やアイデアを取り入れ、個別的・具体的な内容の支援が行えるよう努めている。	○	些細なことでも、利用者様にとって快適な暮らしが送れるようなアイデア等あれば、介護計画へと反映させたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院後や、状態に変化が生じた場合は、利用者様、ご家族、職員と良く話し合い計画を作成している。	○	特に入退院後は、状態が急変している事が多いので、ご家族を集めたりと素早い行動がとれるよう心がけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、誰が見てもわかるようケアの内容を具体的に記入するように努めている。また、介護計画の見直しは、記録も参考にしている。	○	職員によって記入の仕方が、未だにまちまちなので、継続的に指導していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様・ご家族の要望やニーズに応じられるよう、可能な限り支援を行っているが、まだまだ不十分な点があると思われる。	○	施設の機能を活かし、自主サービスの開発なども検討し要望に応じられるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、民生委員の方の協力を得ている。また、行事で公共の施設を使わせて頂いたり、老人クラブの方々の協力を得ている。	○	様々な地域資源との共働を図れるよう、積極的に取り組みたい。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者様・ご家族の要望やニーズに応じられるよう、可能な限り支援を行っている。その際は、他の事業所のケアマネジャーと話し合い、相談・援助を行っている。	○	様々なサービス利用ができるよう、他の事業所間との連携なども図っていきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、権利擁護制度や、成年後見制度を活用している利用者は入所していないが、常に地域包括支援センターと協働を図るよう心がけたい。	○	必要時は、地域包括支援センターや、役場などとも連携を図り、支援に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の要望により、かかりつけ医で受診するよう努めている。	○	今後も医療機関との連携を図り、利用者様が適切な医療を受けられるよう支援する。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に主治医が往診してくれて、利用者様や職員の相談を受けて頂いたり、指示や助言などを行ってもらっている。	○	今後も主治医による指示や助言等をもらえるよう、関係を継続していきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と連携を図り、24時間いつでも相談できるような体制を整えている。	○	今後も協力医療機関と連携を図り、いつでも相談できるように努めていく。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	月に1回、協力医療機関との会議があり、情報を交換している。また、ご家族も含め医療機関へ出向き、早期退院できるよう努めている。	○	入・退院のみでなく、常日頃から医療相談ができる体制を整えていきたい。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関の協力もあり、重度化した利用者様には、早期に主治医による説明が行われている。その際は、ご家族を含め、今後のケアの方針を定めている。	○	看護師がいないため、ご家族の希望があっても看取りができない状況なので、今後検討していきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医による助言などを参考に、チームで話し合い、ケアの統一を図っている。	○	夜間など職員は、不安を抱いているのでチームで協力していけるよう努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐため、別の居所へ移る場合は情報交換を十分するよう心がけている。	○	情報交換を十分しているようで、できていない場合もあるため何度も確認し、利用者様のダメージを最小限に抑えるよう努めたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を尊重し、言葉遣いに気をつけるように努めている。 記録は、個人情報保護法に基づき外部に情報が漏れないよう扱っている。	○	なれ合いによる言葉遣いや対応も見られるため、職員間でのお互いの注意など、チームで取り組んでいる。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の状態に合わせた説明の方法を心がけ、自己決定が行えるよう支援している。また、聴力障害の強い場合は、白版の利用などで意思の確認をしている。	○	意思表示が難しい利用者様もおられるが、できる限り、本人の意志や希望に添えるよう努めたい。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせた生活ができるよう心がけている。	○	職員によっては、利用者様に合わせる事が苦手な人もいるため、その都度、指導をしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際は、本人の希望を尋ね、好みの装いができるようにしている。 理髪店も希望の店へ送迎している。	○	公共の場などへ出かける際、スーツを持参してもらうなど、ご家族からも協力を得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人に見合った食事形態や、嗜好を考慮しながら安全に食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。	○	月に一度のお料理会にて、利用者様を先頭に開催しているが、今後は開催の回数を少しずつ増やしていきたい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午前・午後の水分補給時は、数種類の飲料水のメニューより、その時に飲みたい物を選んで頂いている。要望があれば、すぐに考慮していくよう心がけている。	○	冬場にもなり、なかなか外出の機会がないので、食材の買い物に行く際には、希望のある利用者様も一緒に買い物支援を兼ねて外出を作ってきたい。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	羞恥心を常に傷つけないよう、誘導の際にも声掛けに気をつけている。排泄パターンや排泄時の操作をモニタリングしながら、その方に合ったオムツを使用したり負担がかからないよう支援している。	○	今後も少しでも、排泄面での自立ができるよう、個々にケアに取り組んでいきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・木が入浴日ではあるが、その日以外でも希望があったり、排泄での失敗の際には随時実施している。湯の温度や入浴時間等は、利用者様が満足して頂けるように心がけている。	○	
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体力が低下されている利用者様や不眠の訴えが聞かれている利用者様へは日中の臥床時間を促している。夜間隊も、睡眠を妨げるような要因は取り除くように努めている。	○	全利用者様、不快感なく安楽に入眠できるよう今後も取り組んでいきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能や、その方の生活歴により、個々人に合ったアクティビティを促しながら、本人の生きがいや役割を持つていけるよう取り組んでいる。	○	認知症の進行を少しでも緩和できるよう、また役割を持つことによる意欲にもつなげていければと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の認知症状を考慮しながら、自己管理が可能である方へは金銭管理での支援を行っている。本人管理するうえで、ご家族へも承諾を頂いている。	○	
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内行事での外出の他にも、近隣への散歩や買い物支援を行っている。	○	今後は冬場ということもあるので、地域交流（保育園との）を活用したり、外出の機会を作っていきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆等は、ご家族へ自宅への外出や墓参り、希望時にも随時ご家族へ協力を依頼している。ホーム側でも、遠方へドライブを企画したりと、工夫を行っている。	○	なかなか、希望に添えないこともあるので、出来る限りは可能に向けていければと思う。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、支援を行いご家族との連絡を取るようになっている。難聴の方には職員が聴きとって伝える等、支援に努めている。	○	
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、ご家族の希望があれば、宿泊も可能にしている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修会でも、「虐待や不適切なケア・身体拘束」に関しての知識向上を図り、常に心がけるよう呼びかけている。	○	不適切なケアに該当しない範囲でも、職員間で常に議論し合いながら、利用者様の尊厳や人権を守っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関及び、各居室の施錠をせずに見守りを強化している。	○	
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間帯はこまめに巡回し、日中でも居室で過ごされる方へは適宜訪室するように努めている。	○	
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手の届かない箇所へ収納・保管するようにしている。	○	
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせてながら、危険箇所の除去や工夫をしている。	○	事故防止チェックシートを活用し、日々の気づきの機会を設けている。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各ユニットでケースカンファレンスを開催し、全利用者様について状態の報告等の機会があり、ヒヤリハットの報告書も随時全職員へ報告し、再発防止に努めている。	○	全利用者様が安全に暮らして頂けるよう、職員間が常に緊張感を持ち、早期段階で要因を解決できるよう、今後さらに強化し取り組んでいきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域へ協力体制について運営推進会議にて相談し、今後具体的に確執していけるよう、調整を図っている。	○	災害時・緊急時の連絡体制を整えている。だが、地域の協力も今後確立していきたい。避難訓練を年に2度実施しているも、冬場の訓練を今後実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎日、職員が気付きシートへ記入し、その日のうちに解決できる内容は全職員へ申し送るように取り組んでいる。または、随時心配や悩みがあれば専門員を交えて検討を行っている。	○	今後も、利用者様の認知症状の進行予防やBPSDが緩和できるように努めていくためにも強化して取り組んでいきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル面での変動がある利用者様は再検を実施したり、病状を観察しながら、異変や急変時も含み主治医へこまめに上申し、指示を仰ぐよう努めている。	○	心身ともに低下が見られているので、今後も医療機関との密な連携を図っていきたい。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時、服薬の変更がある場合には、用途や副作用を確認し、処方箋でも必ず確認を行っている。内服の際にも、自立されている方であっても確認を実施している。	○	
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が無いときには腹部膨張がないか、痛みはないか、水分摂取量は十分であるかを確認し、改善が無い場合は主治医へ相談し、下剤等の調整を図って頂いている。	○	パーキンソン病や便秘がちな利用者様は少ないので、今後も注意して排便状態を観察していきたい。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア(仕上げ磨き)を実施。義歯の方でもスポンジブラシを活用したりと、清潔保持に努めている。	○	食後の誤嚥予防も兼ねて今後も継続していきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックシートを活用し、把握に努めている。	○	栄養士など、専門家への総カロリーや献立に関して指導を受けたり、助言を頂けるよう今後取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	社内研修会でも、マニュアルをもとに再度見直しと認識をして頂いている。	○	時期的にもリスクが高まるので、厳重に予防へ努めていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限や保管箇所を注意し対応を図っている。利用者様が管理している食材についても、こまめに腐敗物等ないか確認を行っている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも、出入り可能であるので、装飾についても適度に納めている。	○	
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットにて、季節にあった飾りがされている。温度や湿度も昼夜測定し、快適に過ごして頂けるよう心がけている。	○	
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが置いてあったり、カラオケも利用様の使用目的も考慮しながら設置している。各ユニット間のつなぎ廊下も施錠していないので、いつでも気楽に行き来可能である。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	生活の歴史を感じられる写真や所物は持参して頂 いている。個々人にあった配置に心がけている。 自室の場所がすぐわかるよう、戸へ名札を取り付 けている。	○	
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	排泄にかんしては、消臭剤や芳香剤の設置、汚染 したリネン類も別部屋に管理している。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	事故防止もかねて、常にホーム内の危険箇所はな いか確認を行っている。また、残存機能を上手く 活用できるよう、個々人に見合った福祉用具を活 用していただいている。	○	
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室へは名札を取り付け、トイレへも案内とし て貼り付けている。少しでも困惑した様子が見受 けられたら随時、寄り添い拡張しないように努め ている。	○	
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	中庭へは花を植え、敷地内へも小さな畑があり、 季節にあった食材を収穫。カラオケもあり、いつ でも使用できるようになっている。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)